

「指導例」を有効に活用した単元構成のアイデア（中学校第2学年）

1 めざす子どもの姿

(1) 身に付けさせたい言語の力

- ・つくった作品を読み返し、効果的な表現技法を取り入れ、思いの伝わるものにできる力〈「B書くこと」(1)エ〉
- ・思いを表現するために、適切な語句を用いることができる力〈伝国イ(イ)〉

(2) 「身に付けさせたい言語の力」に関する子どもの実態

自分が経験したことや思いを表現するとき、語彙が十分でないため自分の思いを正確に言語化できない生徒が少なくない。1学期は、「アイスプラネット」を学習した後、主人公になったつもりで、叔父である「ぐうちゃん」に手紙を書き、交流するという学習を行った。手紙を書くという経験が少ない生徒たちは戸惑いを見せていたが、学習したことと自分の経験を重ね合わせて手紙を書きあげることができた。しかし、これまでに学んできた、比喩、倒置法などの表現技法の効果を生かし、より豊かに表現するところまでは至っていない。

(3) 年間指導計画上の位置付け

第2学年では1学期に「新しい短歌のために」という単元で短歌の学習を行った。学習目標は、「短歌を読む楽しさを知り、その表現の美しさを味わう」「短歌を読み、そこに使われている言葉や表現に即して情景や心情を想像する」ことであった。中学校で初めて短歌の学習をした生徒たちは、定型のもつリズムと限られた文字数から無限に広がる短歌の世界に興味をもって学習に取り組むことができた。本学習では、適切な言葉を用い、効果的な表現技法を取り入れて短歌をつくることを通し、日本の伝統的な詩の形式に親しませたい。

2 単元(題材)名

第2学年「自分の思いや体験をもとに短歌をつくろう～表現の効果について考える～」

*使用した指導例…「『ドクンドクン』～表現の効果について考える～」

〔滋賀県学校改善アクションプラン推進協議会授業改善・調査部会(国語部会)作成〕

3 題材観

短歌は、31音の中に、自然の美しさや人間の感動などを表現した日本の伝統的な詩の形式である。本時は指導例「『ドクンドクン』～表現の効果について考える～」を用いることで、表現の効果について考えさせ、豊かな言語感覚を養いたい。また、2学期に実施された職場体験の経験をもとにつくった短歌を推敲することを通して、自分の思いを適切に表現する語句を考えさせるとともに、短歌の表現技法への理解をさらに深め、日本の伝統に一層親しみをもたせたいと考える。

4 学習目標

- ・短歌の効果的な表現の仕方について考えをもち、進んで交流することができる。(国語への関心・意欲・態度)
- ・つくった短歌を読み返し、効果的な表現技法を取り入れてより思いの伝わる短歌にすることができる。(書く能力)
- ・思いを表現するために、適切な語句を用いることができる。(言語についての知識・理解・技能)

5 評価規準 []は関連する指導事項

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
○短歌の効果的な表現の仕方について考えをもち、進んで学習に取り組もうとしている。	○つくった短歌を読み返し、効果的な表現技法を取り入れてより思いの伝わる短歌にしている。〔B「書くこと」(1)エ〕	○思いを表現するために、適切な語句を用いている。〔伝国イ(イ)〕

6 本時の学習過程 ()は評価項目

過程	学習内容および学習活動		指導上の留意点、評価(◎)
	学習内容	学習活動	
導入	1 本時の目標を確かめる。	①学習の目標を知る。	・職場体験後につくった短歌について、適切な語句や効果的な表現技法を取り入れてより思いの伝わる短歌にし、友だちと交流することを知らせる。
展開	2 学習プリントにある【短歌と鑑賞文A】【短歌と鑑賞文B】について考え、意見を交流する。	②学習プリントの【短歌と鑑賞文A】と【短歌と鑑賞文B】を読み、どのような心情や情景を歌った短歌であるかを考える。 ③短歌Aの「ドクンドクン」、短歌Bの「ふうわり」は、何を表しているかということを考える。 ④擬音語・擬態語について、使うときと使わないときとでは印象の違いがあるのかどうかを考える。 ⑤学習プリントの【最初につくった短歌B】と完成した短歌Bと比べて読み、印象の違いを考える。	・既習事項をもとに考えさせる。 ・表現技法が用いられているときとそうでないときの違いを考えさせる。 ・擬音語・擬態語の効果に気付かせる。 ・倒置法の効果に気付かせる。 ◎短歌の効果的な表現の仕方について考えをもち、進んで学習に取り組もうとしている。(国語への関心・意欲・態度)
	3 職場体験後につくった短歌を読み返し、効	⑥擬音語・擬態語、倒置法を取り入れた短歌を	・体験時の様子を思い出して考えるように促す。

	果的な表現技法を取り入れてより思いの伝わる短歌にする。	考える。	<p>◎つくった短歌を読み返し、効果的な表現技法を取り入れてより思いの伝わる短歌にしている。(書く能力)</p> <p>◎思いを表現するために、適切な語句を用いている。(言語についての知識・理解・技能)</p>
整理	4 短歌を互いに読み合い、表現の効果について交流する。	⑦短歌を互いに読み合い、擬音語・擬態語、倒置法が効果的に取り入れられているかどうかについて話し合う。	・観点を明確に示して話し合わせる。